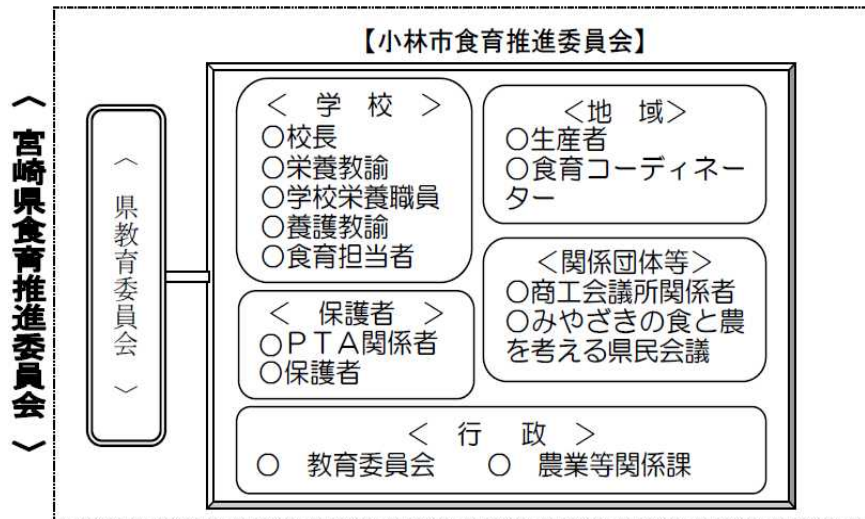


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	宮崎県
推進地域名	小林市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 学校における地場産物活用を核とした食育推進体制づくり

1 食育推進委員会の編成

学校給食や食に関する指導への地場産物の活用を促進する上での課題及び解決方法、効果的な地場産物の活用方法等について検討するための「食育推進委員会」を編成し、事業の推進に係る諸事項について協議を行うとともに成果の分析等を行った。

- 食育推進委員会等
 - ・ 第1回 … 平成24年 7月30日(月)に開催：【会場：小林市役所】
 - ・ 第2回 … 平成24年 8月24日(金)に開催：【会場：小林市役所】
 - ・ 第3回 … 平成24年10月10日(水)に開催：【会場：小林市中央公民館】
 - ・ 第4回 … 平成24年11月14日(水)に開催：【会場：小林市役所】
 - ・ 第5回 … 平成25年 2月21日(木)に開催：【会場：小林市中央公民館】
 - ・ 食育推進委員会常任理事会 … 平成25年1月22日(火)に開催：【会場：三松小学校】
 - ・ 小中一貫食育推進会議 … 平成25年1月23日(水)に開催：【会場：三松小学校】

※ 準備委員会

事前に、県及び市教育委員会職員、校長、栄養教諭等、関係者10名による準備委員会を2度実施し、食育推進委員会の構成メンバーや事業の概要等について検討した。

テーマ2 地場産物を活用した体験活動の実施等、学校における食育の推進

1 児童生徒の実践力を育成するための全県的手立ての工夫

- 啓発のためのホームページの作成
 - 「食に関する指導」と「みやざき弁当の日」のページを作成し、県庁のホームページ上に公開した。



【宮崎県庁ホームページに掲載した食に関するページ～「食に関する指導」「みやざき弁当の日」】

2 事業推進地域（小林市）における実践の支援

再委託先における取組に際して、企画立案への参画及び実施時の助言等を随時行った。

- 農家体験学習（5回実施）
 - … 地域の団体「北きりしま田舎物語推進協議会」と連携した日帰り農家生活体験及び農家民泊の実施
- 親子料理教室（2回実施）
 - … 食生活改善推進員や食育推進リーダー等の協力の下、三松小・中学校合同による、地場産物を生かした郷土料理作り教室の実施
- 食に関する授業研究会
 - … 授業力を高めるための授業研究会の実施
- ふれあい交流給食
 - … 地域の生産者等を招いての、児童との昼食会の実施
- 酪農体験学習「モーモースクール」（12回実施）
 - … 地域の団体「小林市酪農青年女性連絡協議会」と連携した、牛との触れ合いや搾乳等の体験活動の実施
- 「弁当の日」の取組
 - … 児童生徒が自分で作った弁当を持参して会食する「弁当の日」の小林市内全小中学校での実施
- こばやし食育講演会
 - … 小林市外から講師を招聘しての、食に関する講演会の開催
- 啓発のためのポスターの作成及び配付
 - … 小林市内の児童生徒から募集した食に関する図画や標語を活用した啓発ポスターの作成及び配付
- 食育を推進するための参考図書への配付
 - … 食事作りに対する関心を高めたり食の重要性を実感させたりするための図書の、各学校等への配付

テーマ1～2に共通する具体的計画

- 1 地場産物の学校給食への使用促進に関する実態調査の実施
 - 地場産物に関する調査

小林市内の小中学校の児童生徒及び保護者を対象に、地場産物の認識度等に関する実態調査を実施した。
 - 地場産物の納入に関する調査

学校給食に食材を納入する25の業者を対象に、納入促進に係る対応の可否等について調査を実施した。
- 2 視察研修の実施
 - 兵庫県篠山市（保健福祉部健康課、教育委員会学校教育課）、兵庫県加古川市（加古川食肉センター）において、視察研修を実施した。

本事業における評価指標と考察

1 地場産物に関する調査の結果

(1) 小林市内において生産の多い地場産物を知っている児童生徒の割合

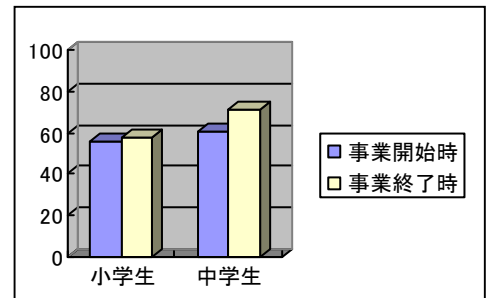
【 事業開始時：小5 5.9%、中6 0.8%
⇒ 事業終了時：小5 7.6%、中7 1.2% 】

(2) 学校給食への地場産物活用を希望する保護者の割合

- できるだけ市内産食材のみ使用希望 … 12%
- できるだけ県内産食材のみ使用希望 … 44%

(3) 学校給食への地場産物活用に伴う給食費値上げを認める保護者の割合

- 地場産物活用のために値上がりしても構わない … 13%
- 現在の給食費のままで地場産物活用促進を希望 … 61%
- 給食費も地場産物の使用割合も現状のままで構わない … 23%



【児童生徒の地場産物の認識度】

2 業者を対象とした、地場産物の納入に関する調査の結果

(1) 学校給食への小林市産の旬の食材使用を依頼した場合に対応できる業者の割合 … 70%

(2) 学校給食への小林市産食材の使用割合を通年で指定した場合に対応できる業者の割合 … 48%

3 考察

事業終了時の調査において、児童生徒の地場産物に対する認識度が事業開始時に比べて高まっていることから、体験活動その他の啓発の取組が奏功したものと考えられる。

学校給食への地場産物活用促進を願う保護者は半数を超えるが、給食費の負担増を伴う措置は難しい状況で、学校給食に旬の地場産物を随時納入することに関しては業者の協力も得られそうであるが、一定の納入割合を示し達成を求めることについては、業者も難しさを感じているようである。

本事業の成果

- 県と市が融合した形の食育推進委員会を組織したことによって、再委託先における事業の成果を各種研修会や県庁のホームページ等を通して県下全域に発信することができた。
- 再委託先における企画立案に県教育委員会が参画し、実施時の助言等を随時行ったことによって、再委託先において県の方針に即した取組及び成果等の検証が行われた。
- 本事業を契機に、小林市が、中学校区毎に小中一貫して食育を推進するための基本プランの作成に着手し、併せて平成25年度当初予算の中に食に関する事業を新設するに至ったことは大きな成果であり、他地域において食育を一層推進する上での参考となる。
- 視察研修においては、再委託先である小林市と規模や環境の似た兵庫県篠山市を訪問し、教育委員会、保健福祉部、給食センターが連携して推進する取組等について直接学んだことによって、食に関する指導への地場産物の活用方法や学校給食の生かし方、食育推進プラン策定のポイント等、事業推進上大変参考になった。
また、加古川食肉センターでの作業を見学し、所長や検査官を交えた協議を行ったことは、加古川市同様に食肉産業の盛んな小林市における体験活動の在り方について考える上で参考になるとともに、参加した委員自身が、命をいただくことのありがたさや尊さについて認識を新たにす契機となった。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・ 小林市における食に関する指導を計画的かつ効果的に推進するための小中一貫体制の構築及び基本プラン策定に向けて、効果的な取組や先進地における特色ある実践事例等を参考にしながら、今後も支援に努めていきたい。
- ・ 事業成果の県内全域への発信及び周知を図るために、講演会の在り方を見直す等、手立てを更に工夫する必要がある。
- ・ 県下全ての市町村教育委員会が基本的事項を共通理解した上で食に関する指導に取り組むことができるようにするため、悉皆による研修の機会を設けたい。

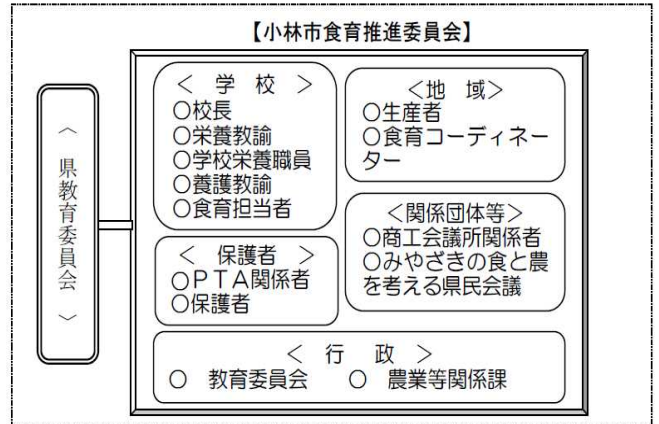
再委託先名

宮崎県小林市

1. 事業推進の体制

以下のメンバーで食育推進委員会を組織した。

宮崎県教育委員会（スポーツ振興課健康教育担当副主幹、同指導主事、南部教育事務所主幹）、小林市教育委員会（教育部長、保健体育課長、学校給食対策監、学校教育指導監、保健体育課主幹）、市立小中学校（校長、栄養教諭、学校栄養職員、食育担当者、養護教諭）、保護者（小林市PTA連絡協議会役員、小学校PTA会長）、小林市（農業振興課主幹、同地産地消担当、畜産課主幹、産業振興課農商工連携担当、健康推進課食生活改善担当）、生産者（小林市畜産振興会連合会所属：和牛生産、JAこばやし青年部所属：メロン生産）、みやざきの食と農を考える県民会議（組織から推薦のあった食育推進リーダー）、小林商工会議所（専務）、北きりしま田舎物語推進協議会（会長、事務局員）



3. 具体的取組等について

テーマ1	学校における地場産物活用を核とした食育推進体制づくり
------	----------------------------

＜内容＞

学校における地場産物の活用に関する課題及び解決策を協議し実践化を目指すとともに、効果的な食に関する指導の手立て等について協議した。

＜実践状況＞

1 食育推進委員会の設置及び検討会等の開催

(1) 食育推進委員会

35名からなる食育推進委員会を設置し、協議会等を7回開催した。

- 第1回食育推進委員会 平成24年 7月30日（月） … 会場：小林市役所
- 第2回食育推進委員会 平成24年 8月24日（金） … 会場：小林市役所
- 第3回食育推進委員会 平成24年10月10日（水） … 会場：小林市中央公民館
- 第4回食育推進委員会 平成24年11月14日（水） … 会場：小林市役所
- 第5回食育推進委員会 平成25年 2月21日（木） … 会場：小林市中央公民館
- 食育推進委員会常任理事会 平成25年1月22日（火） … 会場：三松小学校
- 小中一貫食育推進会議 平成25年1月23日（水） … 会場：三松小学校

※ 常任委員

小林市教育委員会保健体育課長、小林市教育委員会学校教育課学校教育指導監、小林市教育委員会保健体育課保健給食グループ主幹、三松小学校長、三松小学校栄養教諭、県スポーツ振興課指導主事で常任委員会を組織し、恒常的に連携を図りながら事業を推進した。

テーマ2	地場産物を活用した体験活動の実施等、学校における食育の推進
------	-------------------------------

＜内容＞

地場産物の生産や流通についての理解を促したり食に関する実践力を身に付けさせたりするための体験活動、学校と地域との連携による学習活動、栄養教諭や学校栄養職員の専門性を生かした指導方法、啓発のための手立て等、小中一貫による食育推進体制の構築を視野に入れながら種々実践に取り組んだ。

＜実践状況＞

1 農家体験学習の実施

地域で活動する団体「北きりしま田舎物語推進協議会」と連携し、1泊2日の農家民泊、日帰りの農家生活体験等の活動を以下のとおり実施した。

- 平成24年 8月 3日 (金) : 三松中学校1学年生徒73名参加、受入れ農家17戸
- 平成24年 8月20日 (月) ~ 21日 (火) : 三松小学校4~6学年児童6名参加、受入れ農家2戸
- 平成24年10月 8日 (月) ~ 9日 (火) : 市内6小学校の児童30名参加、受入れ農家8戸
- 平成24年11月17日 (土) ~ 18日 (日) : 須木小学校3~6学年児童12名参加、受入れ農家1戸
- 平成24年11月27日 (火) ~ 29日 (木) : 三松中学校2学年生徒5名参加、受入れ農家1戸

《農家での活動例》

- ☆「おしげさんの宿」… トマト・ナスの収穫、池の土上げ、バウムクーヘン作り、昔の遊び、薪での食事作り (火おこし、パエリア・餃子等作り)
- ☆「米ちゃんハウス」… トマト・キュウリ・ナス・ピーマンの収穫、害虫駆除 (ヨトウムシ取り)、大豆の選別、クワガタ取り、山林散策、収穫した野菜を使った食事作り
- ☆「生駒ファーム」… ピーマン・ナス・オクラ・ミニトマト・いもがらの収穫、柿ちぎり、ブルーベリーエキス作り、エンドウ豆の種蒔き、烏骨鶏の餌やり・卵取り、烏骨鶏の調理 (捕獲~毛むしり~解体~調理)、アケビ・ムカゴ取り
- ☆「くすの樹」… ささげの皮むき、オクラの収穫、米の乾操作業 (乾燥機の使用)、米袋へのスタンプ押し、大根・レタスの種蒔き、子牛のシャンプー・餌やり、地場産ユズ・大根・ネギ等を使った釜揚げうどん等の食事作り



【農家生活体験学習 (民泊) ~ 出発式】



【農家生活体験学習 ~ 烏骨鶏の毛をむしり、さばいて、調理していただきました。】



2 親子料理教室の開催

栄養教諭、学校栄養職員、食生活改善推進員、食育推進リーダー等が連携しながら、地場産物を生かした郷土料理等を作る体験活動を以下のとおり実施した。

- 平成24年10月 6日 (土) : 第1回親子料理教室 : 36名参加、指導者5名
- 平成24年11月17日 (土) : 第2回親子料理教室 : 28名参加、指導者7名

《主なメニュー》

- 「かしわの混ぜくり (混ぜご飯)」「だご汁」「かからん団子」
- 「里芋のコロッケ」「西諸っ子ピラフ」「ゴボウポタージュ」
- 「豚肉のバーベキューソース」「りっちゃんサラダ」
- 「ヨーグルトムース」



【親子料理教室~団子作りの様子】

3 食に関する授業研究会の実施

食に関する指導の全体計画をはじめとした諸計画に沿った授業は日常的に実施されているが、加えて、西諸県地区 (小林市、えびの市、高原町) 一円から参加者を募り、以下のとおり授業研究会を実施した。

- 平成24年11月13日 (火) … 会場 : 三松小学校
- テーマ 「生きる力を育む食に関する指導の在り方」

○ 内容

<研究授業>

- ・ 小学校：1年3組：学級活動「朝ごはんを食べよう」：担任と学校栄養職員とのチームティーチング
- ・ 小学校：4年2組：学級活動「よく噛んで食べよう」：担任と学校栄養職員とのチームティーチング
- ・ 小学校：6年2組：学級活動「バランスのよい食事」：担任と学校栄養職員とのチームティーチング
- ・ 中学校：1年A組：家庭科「魚の栄養と調理」：担任と栄養教諭とのチームティーチング

<研究協議>（小学校1年～4年分科会、小学校5年～中学校3年分科会）

… 協議題「（各学年部における）食育推進体制づくり」

<全体会>（協議及び指導助言）

… 協議題「発達段階に応じた食に関する指導の在り方はどうあればよいか」

～ 小学校1年から中学校3年までの系統立てた食育推進体制づくりのために

4 ふれあい交流給食

地元の生産者、食生活改善推進員、市健康推進課の栄養士、学校給食調理員等13名を招いて実施した。給食には、郷土料理のほか、招待された生産者夫妻が育てたミニトマト等が並んだ。

《交流給食の献立》

十二穀御飯、がね（郷土料理）、ミニトマト（地場産物）、豚汁、デザート（リンゴタルト）、牛乳

5 酪農体験学習「モーモースクール」

小林市酪農青年女性連絡協議会と連携し、小学生を対象に畜産や酪農に関する体験学習を以下のとおり行った。

- 平成24年10月15日（月）：栗須小学校 ○ 平成24年10月16日（火）：細野小学校
- 平成24年10月17日（水）：紙屋小学校、南小学校
- 平成24年10月18日（木）：西小林小学校、三松小学校
- 平成24年10月19日（金）：東方小学校、須木小学校
- 平成24年10月23日（火）：小林小学校 ○ 平成24年10月24日（水）：幸ヶ丘小学校
- 平成24年10月29日（月）：野尻小学校 ○ 平成24年11月5日（月）：永久津小学校

《モーモースクールの内容》

家畜検査場における見学及び体験活動、牧場における見学及び搾乳等体験活動、学校への出前授業（講話、牛乳もちやチーズ作り体験）等

6 「弁当の日」の実施

児童生徒が自分で作った弁当を持参して会食する「弁当の日」の取組を、市内21全ての小中学校で実施した。

実践中心校での実施日は以下のとおりである。

- 平成24年 4月16日（月）、9月16日（日）、12月9日（日）：三松中学校
- 平成24年 5月25日（金）、11月11日（日）：三松小学校



【三松小学校での「弁当の日」】

7 こばやし食育講演会

小林市外から講師を招聘して、以下のとおり講演会を実施した。

- 平成25年 1月26日（土）… 会場：小林市民文化ホール（約250名参加）
- テーマ 「食で子どもたちを守り育むということ・・・ ～ 食べることは、生きること ～」
- 講師 渡邊 美穂 氏（元西日本新聞社記者、フリーライター）
船ヶ山清史 氏（「みやざき大地といのちの会」代表、「『弁当の日』in 宮崎実行委員会」委員長、「うどん茶房ふなや」店主）

8 啓発のためのポスターの作成及び配付

小林市内の児童生徒から食に関する図画や標語を募集し、啓発用のポスターを作成・配付・掲示した。

- ポスターの配付先 … 各小中学校、小林市教育委員会、小林市役所、小林市立図書館、小林市文化会館、小林市民体育館、JR小林駅、小林バスセンター、小林市総合運動公園事務所

テーマ1～2に共通する具体的計画

1 食に対する意識調査の実施

A小学校第6学年の児童及び保護者、B中学校第3学年の生徒及び保護者、A小学校第1学年の保護者を対象に、朝食の状況や食事に対する意識等について調査を行った。

2 視察研修の実施

○ 大分県佐伯市（佐伯市役所企画課、佐伯市立渡町台小学校）において、視察研修を実施した。

本事業における評価指標と考察

1 児童生徒の実態に係る調査

(1) 朝食を毎日食べる児童生徒の割合

【 事業開始時：小95.0%、中94.4%
⇒ 事業終了時：小97.5%、中98.3% 】

(2) バランスを考えて食事をしている児童生徒の割合

【 事業開始時：小74.6%、中23.0%
⇒ 事業終了時：小78.0%、中45.8% 】

(3) 多くの食品を食べるようにしている児童生徒の割合

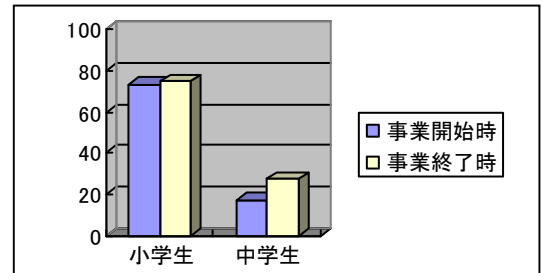
【 事業開始時：小81.4%、中23.0%
⇒ 事業終了時：小81.4%、中64.0% 】

(4) 買い物の時、表示ラベルを見て食品を選ぶ児童生徒の割合

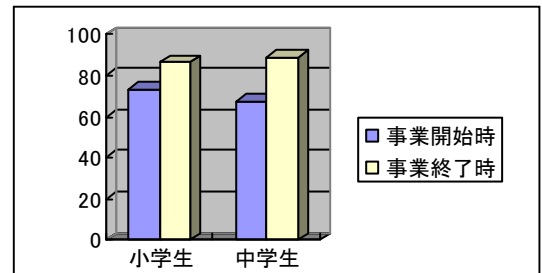
【 事業開始時：小72.9%、中17.6%
⇒ 事業終了時：小74.5%、中27.4% 】

(5) 家で嫌いなものも食べている児童生徒の割合

【 事業開始時：小72.9%、中67.6%
⇒ 事業終了時：小86.4%、中88.9% 】



【表示ラベルを見て買い物をする児童生徒の割合】



【嫌いな食べ物を食べている児童生徒の割合】

2 保護者の実態に係る調査

(1) 朝食のメニューとして、主食におかずまたはおかずと汁物を添えている保護者の割合

【 事業開始時：小79.2%、中80.5%
⇒ 事業終了時：小87.4%、中84.7% 】

(2) 栄養のことを考えて食事を作っている保護者の割合

【 事業開始時：小80.8%、中75.0%
⇒ 事業終了時：小84.4%、中84.4% 】

(3) 安全な食品を食べさせようと努めている保護者の割合

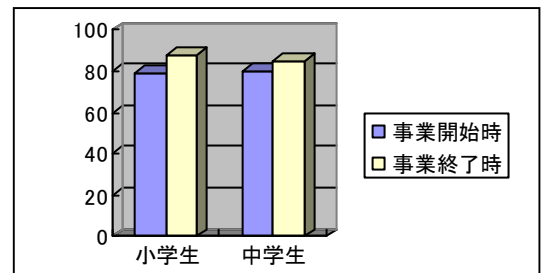
【 事業開始時：小94.4%、中95.8%
⇒ 事業終了時：小95.1%、中95.8% 】

(4) 子どもの嫌いなおかずも作っている保護者の割合

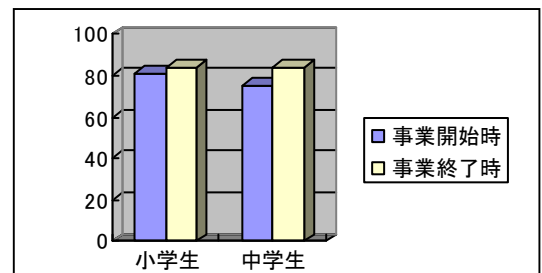
【 事業開始時：小86.4%、中77.8%
⇒ 事業終了時：小88.5%、中78.0% 】

(5) 子どもが嫌いな献立を、食べられるように工夫して調理している保護者の割合

【 事業開始時：小71.2%、中63.9%
⇒ 事業終了時：小77.7%、中67.8% 】



【おかずや汁物を添える保護者の割合】



【栄養のことを考えて食事を作る保護者の割合】

3 考察

栄養や安全等を考えながら食事をしたり、食品を購入したりする児童生徒が増え、種々実践の成果が伺える。

食事の内容を改善したり調理の方法を工夫したりする保護者が増え、児童生徒のみならず、保護者についても事業の効果が現れている。

朝食を毎日食べる児童生徒の割合は元々9割を超えていたが、その割合が更に高まるとともに、副菜を準備する保護者も増えていること等から、保護者の意識や行動の変容が児童生徒の食習慣の改善につながったとも考えられる。

本事業の成果

- 食育推進委員会には、市内の栄養教諭及び学校栄養職員が全て位置付けられているほか、教育委員会、経済部（農業振興課、畜産課、産業振興課）、福祉保健部（健康増進課）、商工会、JA、地域の団体（北きりしま田舎物語推進協議会）、保護者、生産者、食生活改善推進員、食育推進リーダー等、高い専門性を備えた多様なメンバーで組織が構成されており、地域の素材や人材、団体等を最大限に生かしながら食育を推進しようとする上で極めて有効なネットワークとなった。
- 食育推進委員会における協議を通して、食育推進上有効な地域の素材や人材等に関する情報を共有することができた。
- 児童生徒を対象とした具体的な取組の充実を図ることができたばかりでなく、食育推進委員会において、中学校区毎に小中一貫して食育を推進するための基本プラン策定にまで踏み込んだ協議を行うことができ、平成25年度当初予算として、食育推進に係る予算が新たに設けられた。
- 「農家生活体験学習」や「親子料理教室」等の、地域の特色を生かし、地域の団体等と連携して実施した魅力ある体験活動は、児童生徒に食に関する興味や関心をもたせ、生産者に対する感謝の気持ちを実感させるなど、食に関する指導の充実を図るよい機会となった。
- 学級担任と栄養教諭または学校栄養職員とのチームティーチングによる授業研究会を実施したことによって、授業を実施する上での基本的な事項について確認することができ、教職員個々の食に関する授業力を高める上で貴重な機会となった。
- 食に対する関心を高め、実践力を培う上で有効な「弁当の日」の取組を、市内全ての小中学校で実施することができた。
- 食育講演会において実践豊富な講師を2名招聘し、保護者目線での具体的な実践や若者の食生活の実態及び食に関する問題、状況改善のためのポイント等について各々お話しいただいたことで、立場や職種等の異なる参加者個々の多様なニーズに対応することができ、効果的な啓発の機会となった。
- 児童生徒のみならず、保護者や学校給食用食材納入業者に至るまで幅広く調査を実施したことによって、地場産物や食に関する実態及び変容等についての的確に把握することができた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 本事業において得ることができた貴重なネットワークを、今後も維持し機能させていきたい。
- 全ての中学校区で食に関する指導を計画的かつ効果的に実施するための小中一貫体制の構築及びそのための基本プラン策定に向けて、市内の効果的な実践や先進地における取組事例等を参考にしながら、今後更に検討を進めていく必要がある。